

《履修上の留意事項》遠隔授業のみ実施

《担当者名》柴 勤（非常勤講師）

【概 要】

この科目では、新古典主義から世紀末美術にいたる100年間にわたる19世紀フランスを中心としたヨーロッパ美術の流れを、思想、文化、他分野の芸術、社会、政治、経済などのダイナミックな動きと連動させながら考察する。

【学習目標】

モネやゴッホなど、著名な作家や作品の知識を得るということに留まらず、それらがどのような背景、状況の中で登場してきたかなど、時代や社会との関わりにおいて美術の世界を理解できるようにする。さらに、現代に生きる私たちが、そこからどのようなメッセージを受け取ればよいのかを学ぶ。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	新古典主義 ダヴィッドとアングル	18世紀から19世紀にかけてヨーロッパを席卷した美術の動きを、ナポレオン1世の政治的な背景とともに見ていく。	柴 勤
2	ロマン主義 ジェリコーとドラクロワ	ナポレオンの失脚後、新古典主義とともに19世紀前半の主流となったロマン主義の流れと代表的な作家について学ぶ。	柴 勤
3	バルビゾン派 ミレーとルソー	パリの近代化が進行するのに伴い、その近郊の田園地帯であるバルビゾンに生活、制作の場を求めた画家たちについて学ぶ。	柴 勤
4	レアリズム（写実主義） クールベとドーミエ 近代美術の幕開け マネ	19世紀中盤、レアリズム（写実主義）宣言を出して、アカデミズムに真っ向から挑んだ不屈の画家ギュスターヴ・クールベについて学ぶ。 前例のないモチーフ、描写により、周囲の非難を浴びながらも新たな時代を画したエドゥアール・マネの作品について学ぶ。	柴 勤
5	1回～4回のまとめ (課題提出①)	新古典主義からレアリスムの流れについてまとめたレポートを提出。	柴 勤
6	印象主義 1 モネ	19世紀の後半、光を追求する描写により、写実主義の頂点に達した印象主義の代表的な画家クロード・モネについて学ぶ。	柴 勤
7	印象主義 2 ルノワール	モネとともに印象主義を代表する画家であり、人物画を得意としたルノワールについて学ぶ。	柴 勤
8	印象主義 3 シスレーとドガ	水の詩人と呼ばれたシスレーやバレエのレッスン風景など室内における印象主義的表現を追及したドガについて学ぶ。	柴 勤
9	印象主義 4 モリゾとカサット 新印象主義 スーラとシニャック	ベルト・モリゾやメアリー・カサットなど、印象派の中の代表的な女性画家とその作品について学ぶ。 印象主義の描き方を当時の物理理論に基づいて科学的に分析し、一つの時代を築いたスーラやシニャックについて学ぶ。	柴 勤
10	6回～9回のまとめ (課題提出②)	印象主義(1～4)から新印象主義にいたる流れについてまとめたレポートを提出。	柴 勤

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
11	後期印象主義 1 セザンヌ	印象主義の影響から脱することにより、独自の世界観、様式を確立し、「近代絵画」の父とまで呼ばれたポール・セザンヌについて学ぶ。	柴 勤
12	後期印象主義 2 ゴッホ	印象主義の影響から脱し、南太平洋のタヒチで制作活動を展開、独自の絵画世界を打ち立てたポール・ゴッホについて学ぶ。	柴 勤
13	後期印象主義 3 ゴッホ	印象主義の影響から脱し、精神的な苦悩を抱えながらも、独自の絵画世界を構築し、後の芸術に大きな影響を与えたヴァン・ゴッホについて学ぶ。	柴 勤
14	大衆文化と美術 トゥールーズ＝ロートレック 世紀末と象徴主義 モロー	卓越した観察眼とデッサン力で、歓楽街などパリ風俗を描き、ポスター作家として名を遺したトゥールーズ＝ロートレックについて学ぶ。 19世紀後半の印象派台頭期、細密な手法と光沢ある色彩で独特の神祕的世界を描いたギュスタヴ・モローについて学ぶ。 柴 勤	柴 勤
15	11回～14回のまとめ (課題提出③)	後期印象主義（1～3）から世紀末美術の流れについてまとめたレポートを提出。	柴 勤

【評価方法】

レポート①40% レポート②30% レポート③30%

【備 考】

教科書 ： 毎講義でプリント配付

参考書 ： 市販のものを各自用意（講義の中で紹介する）

【学習の準備】

参考書などにより勉強する際には、フランス史と芸術との関係性をとりわけ意識し理解しておくこと（80分）。また、各回の講義時に配付するプリントを熟読し、参考書と合わせて復習すること（80分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

心の問題にかかわる職業人として必要な幅広い教養と専門的知識を修得するという、心理科学部のディプロマポリシーに適合している。

【実務経験】

美術館学芸員

【実務経験を活かした教育内容】

西洋近代美術専門の学芸員として、長年にわたり数多くの専門領域に関わる展覧会を担当することにより、またフランスを中心とした欧米での調査研究などを通し、実際の作品に触れる機会や研究者と意見を交わす機会に恵まれていた。そのような経験を踏まえ、作品や作家に対する知識のみならず、美術館や地域との関わりなど作品を取り巻く環境をも含めて講義する。